

2026年4月1日

都道府県ホッケー協会 御中
ホッケージャパンリーグ 御中
日本社会人ホッケー連盟 御中
日本学生ホッケー連盟 御中
全国高等学校体育連盟ホッケー専門部 御中
マスターズ部会 御中
U-15 カテゴリー部会 御中
U-12 育成グループ 御中
各ブロック、各都道府県競技長・審判長 各位

公益社団法人 日本ホッケー協会
競技運営部 部長 安枝 和子

2026年ホッケー競技規則改定（通知）

皆様方におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、国際ホッケー連盟（FIH）において、2026年3月1日付けで新たなホッケー競技規則が発行されました。競技運営部において変更規模及び変更内容について精査した結果、日本国内では2026年版ホッケー競技規則の全面改定による新規発行は行わず、下記の通り該当箇所を本通知にて周知することといたしました。

主旨をご理解のうえ、ご対応いただきますようお願いいたします。

記

1. 該当規程

2 チームの構成

2.1

原文：試合中はどうような状況であっても、プレイに加わることができるプレイヤーの人数は各チームとも最大11名である。

もしも、許された人数より多く（12名以上）のプレイヤーがフィールド上にいた場合は、その状況を修正するために時間を停止しなければならない。そのことが、不注意によって起こったことで、試合に大した影響もなくほんのわずかな時間であったならば、必ずしも警告を与える必要はないが、人数が増えていたことで試合に大きく影響を及ぼしていたならば、その行為があったチームのキャプテンに対しては、**個人的な罰則（カード）**が与えられなければならない。しかし、もしも時間が再開されたりプレイがリスタートされていたりした場合には、時間停止前に下されていた判定を変えることはできない。

変更後：試合中はどうような状況であっても、プレイに加わることができるプレイヤーの人数は各チームとも最大11名である。

もしも、許された人数より多く（12名以上）のプレイヤーがフィールド上にいた場合は、その状況を修正するために時間を停止しなければならない。そのことが、不注意によって起こったことで、試合に大した影響もなくほんのわずかな時間であったならば、必ずしも警告を与える必要はないが、人数が増えていたことで試合に大きく影響を及ぼしていたならば、その行為があったチームのキャプテンに対しては、**イエローカード**が与えられなければならない。しかし、もしも時間が再開されたりプレイがリスタートされていたりした場合には、時間停止前に下されていた判定を変えることはできない。

5 試合と結果

5.1

原文：試合は、各15分の4クォーターで構成される。第1と第2クォーター、及び第3と第4クォーターの間に2分間の休憩時間を設ける。そして、第2と第3クォーターの間には5分間のハーフタイム（休憩時間）を設ける。

変更後：試合は、各15分の4クォーターで構成される。第1と第2クォーター、及び第3と第4クォーターの間に2分間の休憩時間を設ける。そして、第2と第3クォーターの間には10分間のハーフタイム（休憩時間）を設ける。

9 プレイの細則：プレイヤー

9.10

原文：上げられたボールが落下してくる時、そのボールを受けたり、コントロールしたり、グラウンド上に戻そうとしたりしているプレイヤーがいる時は、相手側はそのプレイヤーから5m以内の距離に近づいてはならない。落下地点でレシーブしようとしているプレイヤーに対し、5mより離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。ただし、プレイヤー同士がプレイ可能範囲内で無いこと且つ、安全にプレイできる状態であること。

変更後：上げられたボールが落下してくる時、そのボールをレシーブしようとしているプレイヤーがいる時は、相手側はそのプレイヤーから5m以内の距離に近づいてはならない。落下地点でレシーブしようとしているプレイヤーに対し、5mより離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。ただし、プレイヤー同士がプレイ可能範囲内で無いこと且つ、安全にプレイできる状態であること。

9.16

原文：ペナルティコーナーの後で、不要になったハンドプロテクター、ニーパッド、フェイスマスク等の守備側選手の防具にボールが当たった場合には、それがサークルの外であったならばフリーヒット、サークルの中であったならばペナルティコーナーが攻撃側に与えられる。

変更後：ボールがフィールド上の固定されていない物体（プレイヤーが投げつけたもの以外）に当たった場合、13.3 n項で規定されている場合を除き、プレイは続行される。

11 プレイの細則：アンパイア

11.8

原文：ボールが、フィールド上のアンパイア、フィールドに入ってはいけない人または固定されていない物体に当たった時は、プレイは続行される。（ただし、9.16項の注釈に明記してある場合は除く。）

変更後：ボールが、フィールド上のアンパイア、フィールドに入ってはいけない人、その接触によって一方のチームに有利な状況が生じない限り、プレイは続行される。その接触によって一方のチームに有利な状況が生じた場合は、アンパイアは時間を停止し試合を再開するためにブリーが行われる。

13 罰則の実施手順

13.3 n

原文：ボールがサークルから5m以上外に移動した場合には、それ以降は、ペナルティコーナーの規則は適用されないものとする。

変更後：守備側プレイヤーがペナルティコーナー用の防具を取り外す適切な機会が無かった場合、23mのエリア内にいる間、ペナルティ無しで防具を着用し続けることができる。すべてのプレイヤーは、23mのエリアから出る前、またはアンパイアから指示されたときに、すべての防具を外さなければならない。ボールが攻撃側プレイヤーによりバックライン又はサイドラインから出された場合、および23mのエリア内で守備側にフリーヒットが与えられた場合、防具を着用している状態の守備側プレイヤーは直ちにボールをパスすることができる。但しセルフパスは認められない。

— ペナルティコーナーの後で、不要になったハンドプロテクター、ニーパッド、フェイスマスク等の守備側プレイヤーの防具にボールが当たった場合には、それがサークルの外であったならばフリーヒット、サークルの中であったならばペナルティコーナーが攻撃側に与えられる。ただし、その結果、おそらく入っていたと思われる得点が妨げられたならば、ペナルティストロークが与えられる。

— ペナルティコーナーの後で、守備側プレイヤーが不要になったハンドプロテクター、ニーパッド、フェイスマスク等を投げ、それが相手選手、審判、またはフィールド外の他の人物に当たった場合、危険かつ過失のある行為とみなされる。このような場合、通常の姿勢で膝または膝より上に当たった場合は、アンパイアは時間を停止しその選手に対してイエローカードが与えられなければならない。プレイの再開は、ボールがサークルの外にあった場合、ボールがあった場所で相手チームにフリーヒットを与えてプレイが再開される。ボールがサークル内にある場合、ペナルティコーナーからプレイを再開する。12.4項の条件を満たしている場合は、ペナルティストロークが与えられる。

2. 適用期日：2026年4月1日より適用

3. 2022年ホッケー競技規則改定内容
本内容も継続して適用となります。

2 チームの構成

2.2

原文：2019年1月1日から施行の強制的実験規則：チームは、ゴールキーパーの特権をもったプレイヤーを使うというオプションは持てないこととする。

変更後：原文削除

6 試合の開始と再開

6.5

原文：d. フリーヒットを行う手順が適用される

変更後：d. フリーヒットを行う手順が適用される

<文言追加> — ペナルティコーナー実施中に、ブリーが与えられた場合はペナルティコーナーが再び与えられる。

13 罰則の実施手順

13.5

原文：g. ブリーが与えられた時。

変更後：原文削除

【お問合せ先】

公益社団法人 日本ホッケー協会事業本部
競技運営部 西澤 英一郎
E-mail:co@japan-hockey.org